

# 中日ニュース

シネスコ版

中日新聞のニュースも 石井玩消防団-鳥取-12月(本編トナ  
高知新聞のニュースも 本編同じ (追加)  
新愛媛新聞のニュースも 140  
No. 477 38.3. 8

## 一、吉田翁悲願実る

苦難の半世紀——名古屋・栃木

二月二十八日名古屋高裁で吉田石松さんのやり直し裁判の判決が行なわれました。五十年間無罪を叫び続けてきた吉田老人にとってこの法廷は残された最後の機会なのです。大正二年名古屋で発生した強盗殺人事件で二人の犯人が、吉田さんに頼まれたと自供、このため身に覚えのない罪におとされ、二十一年に及ぶ牢獄生活をしいられる事になったのです。

だが無実を叫ぶ吉田さんは、海田の写真やワピ状の証拠に、三度も再審を要求しましたが、法のトビラは冷くいずれも却下されてしまったのです。戦後に出した四度目の再審要求の悲憤の生活を送っていたのです。そしてようやく半世紀の悲願がみのり、再審が認められ見事無罪をかちとったのです。がんばり抜いた五十年。だが、えん罪によって失われた吉田さんの生涯を償うことが出来るのでしょうか。

## 一、破られた海の掟

ときわ丸の教訓——神戸・香川

一瞬にして四十七名の生命を奪った悲劇の海。霧一つない平穏な海でなぜ衝突は起きたのか。捜査当局は運航のあやまりと断定しました。

「ときわ丸」の加藤船長は「りっちもんど丸」の警鐘さへ知らなかったといわれ、「ときわ丸」は居眠り運転と同じ状態で、自ら、衝突を招いたので。

怠慢が招いた人災だけに遺族も一層諦めることができせん。発見された救命ボートも板が打ちつけてある代物。このため、助かるべき何人かが海中に消えて行ったのです。当の宝海運は補償金の支払いにも困る始末で、この事件は零細船会社の悲劇ともいわれます。

現在、大阪湾・紀伊水道では四十三社がしのぎを削り、その結果、無理な運航をしているのです。それ故、この惨事は起こるべくして起ったといえるでしょう。このような惨事はもう二度とくり返してはならない。